

凡 例

1. 本年報は、人口動態統計のうち日本における日本人に関する事象を集計したものであり、出生、死亡、死産については、令和3年中に発生した事象を、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、死産は母の住所が「佐世保市」であるものについて集計しました。
また、婚姻、離婚については令和3年中に届出られたもののうち、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所が「佐世保市」であるものの数値です。
2. 本年報における諸率の算出には、令和3年10月1日現在の推計人口（239,960人）を基礎人口として用いました。※令和2年国勢調査確定値を基礎数値として佐世保市政策経営課が算出。
3. 本年報で用いる比率の算出方式は次のとおりです。

$$\text{出生・死亡・自然増
加・婚姻・離婚率} = \frac{\text{1年間の事件数}}{\text{基礎人口}} \times 1,000$$

$$\text{乳 児 死 亡 率} = \frac{\text{1年間の乳児死亡数}}{\text{1年間の出生数}} \times 1,000$$

$$\text{新 生 児 死 亡 率} = \frac{\text{1年間の新生児死亡数}}{\text{1年間の出生数}} \times 1,000$$

$$\text{自 然 増 加 率} = \frac{\text{1年間の自然増加数}}{\text{基礎人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率(自然・人工)} = \frac{\text{1年間の死産数}}{\text{1年間の出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$$

$$\text{周 産 期 死 亡 率} = \frac{\text{後期死産数+早期新生児死亡数}}{\text{1年間の出産数}} \times 1,000$$

〈用語の解説〉

乳 児 死 亡 : 生後1年未満の死亡

新 生 児 死 亡 : 生後4週未満の死亡

周 産 期 死 亡 : 後期死産(妊娠22週以後の死産)と早期新生児(出生後1週未満)の死亡をあわせたもの

低 体 重 児 : 出生時に体重が2500g未満の新生児

合計特殊出生率 : 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で、一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。(都道府県別の合計特殊出生率は厚生労働省において集計)

※ 市の合計特出生率については、出生数の少なさに起因する偶然性の影響のため数値が不安定となる問題があり、参考として集計したもの。

$$\text{(市)合計特殊出生率} = \frac{\text{母の年齢階級別出生数} \times 5}{\text{年齢階級別女性人口(5歳階級別)}} \quad (\text{15歳から49歳までの合計})$$